協働して課題解決に
取り組む体験

自分の思いや考えを表現して伝えよう

中学校

江東区立第三亀戸中学校

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

概要

・生徒が自分達で作詞・作曲に挑戦して母校の応援歌を創作することで、より愛校心をもち、生徒・教師だけでなく学校への絆・友情を深めることを目的とする。
・作詞、作曲、歌唱、話し方など、各分野のプロを講師に招聘し、アドバイスをいただくとともに、"本物"に触れながら、生徒自身が何事も本気で取り組み、学校生活の中で心に残る、一生の思い出を作っていく。

育成を目指す資質・能力

・意欲的にチャンレンジし、積極性や主体性を発揮している姿
・協力したことや達成感を感じたことなどにより、友達との関係性が深まっている姿
・想像力や表現力に磨きをかけようとする姿
・各分野のプロ等から刺激を受け、自身の夢や理想の自己実現に向けて、モチベーションが高まっている姿

年間指導計画

	6～7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
各教科等	生徒会活動 応援歌を作詞作曲することを学ぶ	体験① 作詞作曲の中から曲が創り上げられる楽しさを学ぶ		実行委員会 歌詞の編集や旋律の選曲を行う	体験② 合唱表現を通して音楽を奏でる楽しさを学ぶ		体験③ 応援歌の発表を通して全校で創作した旋律や歌詞の思いを伝える		合唱コンクール 完成した応援歌を歌い継いでいくことについて学ぶ	

体験①　概要

作詞・作曲制作体験

全生徒と全教職員の参加型で、応援歌の中に入れたい歌詞を夏季休業中の宿題とし、集まった歌詞を生徒会役員で厳選し、作詞を行った。その際、作詞家と作曲家から直接指導・アドバイスをいただき、作詞をする際の注意事項等を学んだ。また、出来上がった詞に、３学年の音楽の授業を通して作曲活動を行った。作曲家からは、自由な発想で考えることの大切さを学び、思い思いのフレーズを歌詞に合わせながらつないでゆく作業も行った。

体験②　概要

合唱指導体験

応援歌合唱のお手本となる有志を募り、応援歌を歌う練習をした。元歌のお兄さんから、歌詞に込められた情景や思いをどのように伝えるか等の歌う際のアドバイスを直接いただいた。また、編曲者の方にも直接指導いただき、応援歌を完成させた。完成した応援歌は、元歌のお兄さん等の指導とアドバイスのもと、レコーディングスタジオで録音し、レコーディング体験をすることができた。

全体の合唱では、学年毎にプロの方から、声の出し方等の歌い方に関する指導をいただいた。

体験③　概要

発表体験

合唱コンクールの中で応援歌の発表を行った。プロの司会者から運営の仕方を学ぶとともに、元歌のお兄さんに演出をしていただき、応援歌「三亀魂」を全校生徒で、来賓・地域・保護者の方々の前で発表することができた。

学校に永遠に残っていく歌として、全校生徒と全教職員で本校の応援歌の作詞と作曲を行い、楽しく必死に歌い練習してきたことにより、愛校心が醸成された。

体験　１回目

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

・５月の全校朝礼で校長から「全校生徒で応援歌を創りたい！」という思いとその趣旨を伝えられ、生徒・教員から賛同を得た。
・応援歌制作は、生徒会役員に依頼し、作詞は、全校生徒の思いをくみ取ること、作曲は、音楽の授業を通して3学年にお願いした。



【生徒】

・生徒会役員を中心にどのようにみんなで創ることができるかを考え、作詞もテーマを決めて募集した。
・全生徒から集まった単語を生徒会がまとめ、作詞した。
・作曲は、３年生が音楽の時間に授業内で「作曲」を行った。

事後・振り返り

全生徒から集まった単語から、生徒全員が母校に対してどのような思いを持っているのかが理解できた。まとめる作業も楽しくでき、全生徒の思いがなるべく全て反映できるような作詞を心がけた。とても楽しく、良い歌詞ができた。

作詞家にいただいたアドバイスに生徒たちは感心し、うなずきながら作業をしていました。また、作曲家からは、音のひとつひとつのバランスを大切にとのアドバイスをもらいました！





単語や音のつなげ方の違いで、歌詞の感覚が変わることなど、同じ言葉・音符でも順番を変えるだけで意味合いが変わってくることを学びました。

取組・実践

歌詞制作

夏休み前に全生徒と教職員約300名から、応援歌の歌詞にする言葉のアンケートをとった。夏休みに生徒会役員が何度か集まり、アンケートから出てきた言葉を歌詞にした。制作した応援歌の歌詞について元歌のお兄さんと、作詞家のもりちよこさん、作曲家の栗原正己さんから、直接ご指導いただいた。最初は、生徒会役員の生徒たちも緊張気味だったが、各プロの方からたいへんわかりやすく優しい教え方に、感心したり、目を見開いてうなずいたりする姿が多く見られた。プロの方から教えていただいた事をもとに、再度、歌詞を考えてくることを約束して終了した。





作曲制作

全校生徒からの募集で作られた「三亀中応援歌の歌詞に曲を付ける」ため、音楽の授業中に３学年の生徒による作曲活動を行った。授業には、作曲活動をお手伝いしてくださる元歌のお兄さんと、作曲家の栗原正己さんも参加した。「ピタゴラスイッチ」の曲ができるまでのお話や、曲を作るまでに考えることなど、貴重なお話をしていただいた。生徒は、歌詞を見ながらどこに自分たちの思いや気持ちを込めたいのかを考えながら、真剣にメモを取って学んでいた。





体験　２回目

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

・応援歌がほぼ出来上がり、お手本として歌う有志の生徒を募集した。
・応援歌が完成したら、レコーディングスタジオで録音をするため、元歌のお兄さんに歌唱指導をお願いした。
・完成した応援歌を編曲家に編曲をしていただき、大変歌いやすい応援歌となった。



【生徒】

・有志として、教員と各学年から数名ずつ生徒が集まり、プロの歌手などによる歌唱指導を実施した。
・レコーディングは、一流のアーティストも使うスタジオで行われたため、大変緊張している様子だった。

事後・振り返り

　プロの方々の編曲や歌唱指導のお陰で、たいへん歌いやすくみんなが口ずさめるような親しみやすい曲が完成した。レコーディングでも満足がいく歌唱ができた。
　合唱指導では、全員の生徒がプロの方から指導を受け、その後の変化にみんな驚く姿があった。



　編曲は主にピアノの伴奏部分であったが、そこを変えるだけで曲全体に変化が生まれたことに驚きました。また、合唱のアドバイスもポイントを絞ったお話しであったため、生徒たちも納得の表情で合唱に酔いしれている感じでした。



　みんなで作ってきた応援歌なので、この応援歌の意味をよく考えて、歌詞ひとつひとつに思いを込めて歌うことを大切にしようと思いました。

取組・実践

合唱指導

　応援歌が完成し、有志による応援歌の練習をした。
　応援歌曲の作成に関わっていただいている元歌のお兄さんと作曲家の栗原正己さんに歌唱指導をしてもらった。元歌のお兄さんからは、歌詞の意味をしっかりと考えて歌うこと、その歌詞に込められた思いと情景を思い浮かべて歌うことの大切さを教えていただいた。また、栗原さんから、リズムを頭に入れて歌うことの重要性を教わった。最初に歌った歌とは見違えるような歌声の応援歌になり、歌っている生徒たちもビックリしていた。





レコーディング

　「応援歌を後世に残してほしい」という元歌のお兄さんの提案から、有志の生徒と教員でレコーディングスタジオに行き、応援歌の録音をした。一流のアーティストも使うスタジオでの収録とあって、生徒も教員も練習の段階から緊張気味にスタートした。「本番！」の声がかかるとさらに緊張が増したが、みんなで気持ちを合わせ、楽しく歌いきった。元歌のお兄さんから「最高に良かった!」と声を掛けていただき、お互いの頑張りを称え、みんなで拍手をするとともに、録音した歌を聴き、みんなが満足できる合唱となった。一生に一度となるような体験となり、スタッフの方々への感謝の思いでいっぱいとなった。





体験　３回目

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

・合唱コンクールの中で、制作した応援歌の発表をした。
・来賓や保護者、地域の方々に今まで行ってきた生徒たちの取組の様子も併せて伝えるため、制作経過が分かる動画を作成して流した。



【生徒】

・プロの司会者に、司会をする上での話し方や間の取り方などを教えていただき、本番に生かした。
・本番では、レコーディングを行った有志の生徒たちが集まり、舞台中央で歌った。

取組・実践

発表体験

元歌のお兄さんに応援歌制作の行程についてお話をしていただき、映像でも振り返りを行った。また、携わっていただいた作詞家・作曲家・編曲家・司会指導の方からの応援歌完成に際して激励メッセージをいただいた。

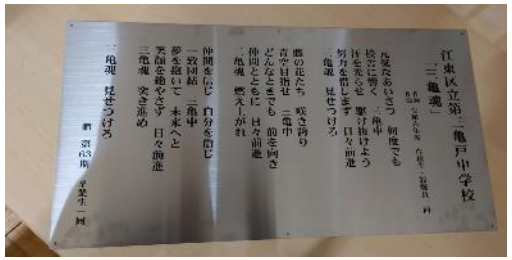
舞台上に旋律作曲に関わった3年生が登壇するとともに、レコーディングに参加した13名の有志たちも舞台に上がり応援歌を合唱し、お披露目を行った。





銅板作成

今年度の卒業生より、卒業記念品として応援歌「三亀魂」の歌詞が刻まれた銅板が寄贈され、校舎の玄関に飾られた。



事後・振り返り

生徒全員が大きな声で、自分の学校の応援歌として堂々と歌い上げている姿に感動した。また、作詞家から応援歌を「三亀魂」と命名していただき、更に盛り上がった。

生徒が中心となり、年間をとおして取組んだことにより、学校全体が充実した時間を過ごせた。また、来賓や保護者・地域の方からもたくさんの賛辞をいただいた。

成果

自分たちで考えた歌詞やメロディーがプロの方々に関わっていただき、より歌いやすく応援歌らしいものに変わっていくことを実感した。また、プロの方々の合唱指導により驚くほど声が歌い方が変容していくことを生徒自身が感じていた。

発表本番では、保護者や地域の方々の前で、生徒全員が笑顔で応援歌「三亀魂」を大合唱し、拍手喝采をいただき、誇らしい表情をしていたのが印象的だった。

事後学習においては、自分たちの創作したものが現実に形となり、合唱できたことに「夢のようだ」「やればできる」等の感想をもつ生徒や、応援歌を今後みんなで歌いつないでいくことを誓う生徒も多くいた。

生徒が中心となって母校の応援歌の制作に挑戦したことにより、より愛校心をもったり仲間との絆や・友情を深めたりすることができた。

